

令和7年度 第1回

高槻市 水道事業審議会

安全・安心を
未来へつなぐ
高槻の水道

令和7年8月28日(木)
15:00～

TAKATSUKI
HANITAN



目次

01

審議内容

..... P.1

02

高槻市の水道について

..... P.2

03

経営戦略（実績確認と更新ポイント）

..... P.16

04

実施計画（実績確認と更新ポイント）

..... P.26

第

1

回



高槻市
水道事業審議会

目次

01

審議内容

.....

P.1

02

高槻市の水道について P.2

03

経営戦略（実績確認と更新ポイント）

..... P.16

04

実施計画（実績確認と更新ポイント）

..... P.26

第 1 回

1

高槻市
水道事業審議会



01

審議内容

R3
2021R8
2026R13
2031R18
2036高槻市水道事業
基本計画
(令和3年度～令和12年度)

高槻市水道

高槻市水道事業基本計画
実施計画
(令和3年度～令和7年度)令和3年3月
高槻市水道部審議会任期
(R7年6月～R9年6月)

高槻市水道事業基本計画(令和3年度～12年度)

水道ビジョン※変更なし

経営戦略(令和3年度～12年度)

見直し

経営戦略(令和8年度～17年度)

第1回審議会
審議事項

高槻市水道事業基本計画 実施計画

第2回審議会
審議事項

実施計画(令和3年度～7年度)

実施計画(令和8年度～12年度)

R7 審議内容

●第1回審議会

- ・高槻市の水道について
- ・経営戦略 実績確認(R3-R6)
- ・実施計画 総括(R3-R7)※R6まで
計画期間前半の実績を確認、事業の進捗
状況を総括、課題や対応状況等を整理

●第2回審議会

- ・経営戦略 見直し(R8-R17)※
- ・実施計画 策定(R8-R12)

水道料金改定や、社会情勢の変化・事業進捗
などに応じた検証・見直しを実施

※経営戦略は、総務省から期間を10年超とすることが求められている

R8年度以降は毎年度、実施計画の進捗確認を行う予定

目次

01

審議内容

..... P.1

02

高槻市の水道について

..... P.2-

03

経営戦略（実績確認と更新ポイント）

..... P.16

04

実施計画（実績確認と更新ポイント）

..... P.26



第 1 回

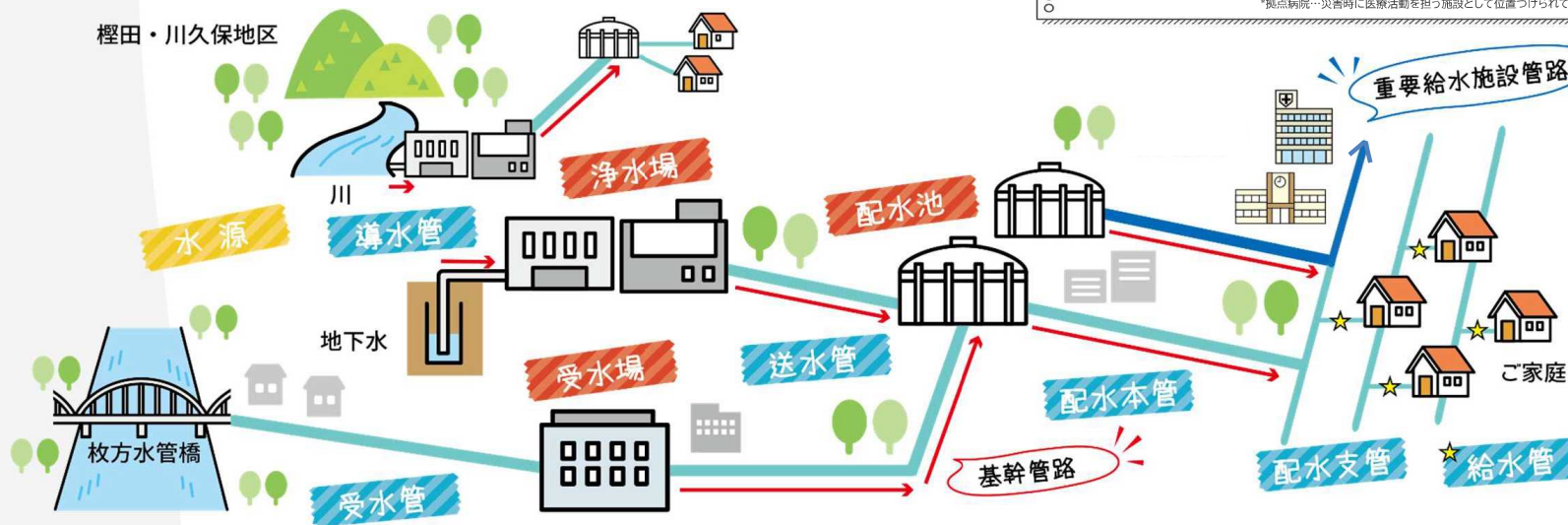
高槻市
水道事業審議会

基幹管路

被害を受けると断水の影響が広範囲となってしまう
大きな管路

重要給水施設管路

災害時に特に水を必要とする拠点病院*や、救護所などに至る管路
*拠点病院…災害時に医療活動を行う施設として位置づけられている病院



施設

浄水場

水道水をつくる施設

受水場

企業団から購入し、枚方市の村野浄水場から送られる水道水を受ける施設

配水池

できあがった水道水を貯めておき、使用量の変動を調整する施設

水道管

受水管

企業団の水道施設から受水場まで水道水を運ぶ管路

導水管

水源の水を浄水場に運ぶ管路

送水管

水道水を配水池まで運ぶ管路

配水管

配水池から給水管まで水道水を運ぶ管路

給水管

配水管から家まで引き込まれた管路

1日におよそ10万^m₃
の水を高槻市内に給水
しています。



< 令和 7 年 3 月末時点 >

浄水場

名称	水源	1 日認可取水量 (^m ₃)
大冠浄水場	地下水	37,500
榎田浄水場	表流水	605
川久保浄水場	表流水	89

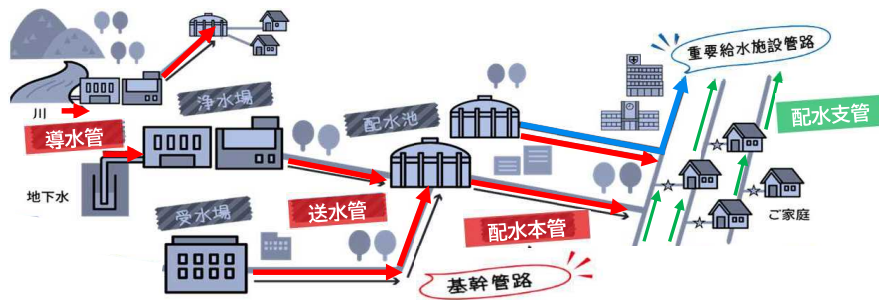
主な 送水施設

名称	築造年度*	池数	貯水容量 (^m ₃)
清水受水場	H7	1	5,000
奈佐原受水場	S50	1	10,000
五領受水場	H29年度に機能縮小により受水池廃止		
摂津峡中継ポンプ場	S53	2	70
萩谷中継ポンプ場	H8	2	50
榎田浄水池	S48	2	66

主な 配水施設

名称	築造年度*	池数	貯水容量 (^m ₃)
大冠配水池	S47	3	20,625
日吉台配水池	S52	3	7,200
城山第 1 配水池	S47	2	4,000
阿武野配水池	H4	2	10,000
阿武山配水池	S60	2	4,500
大和第 1 配水池	H28(改築)	2	231
大和第 2 配水池	S62	2	72
摂津峡配水池	S53	3	200
萩谷低区配水池	H12(改築)	2	90
萩谷高区配水池	H8(改築)	2	50
榎田配水池	S48	4	578
川久保配水池	S62	2	87.5

*:当該施設にて、令和 7 年 3 月末時点で運用している池状構造物のうち最も古い築造年を記述



水道管更新工事の様子

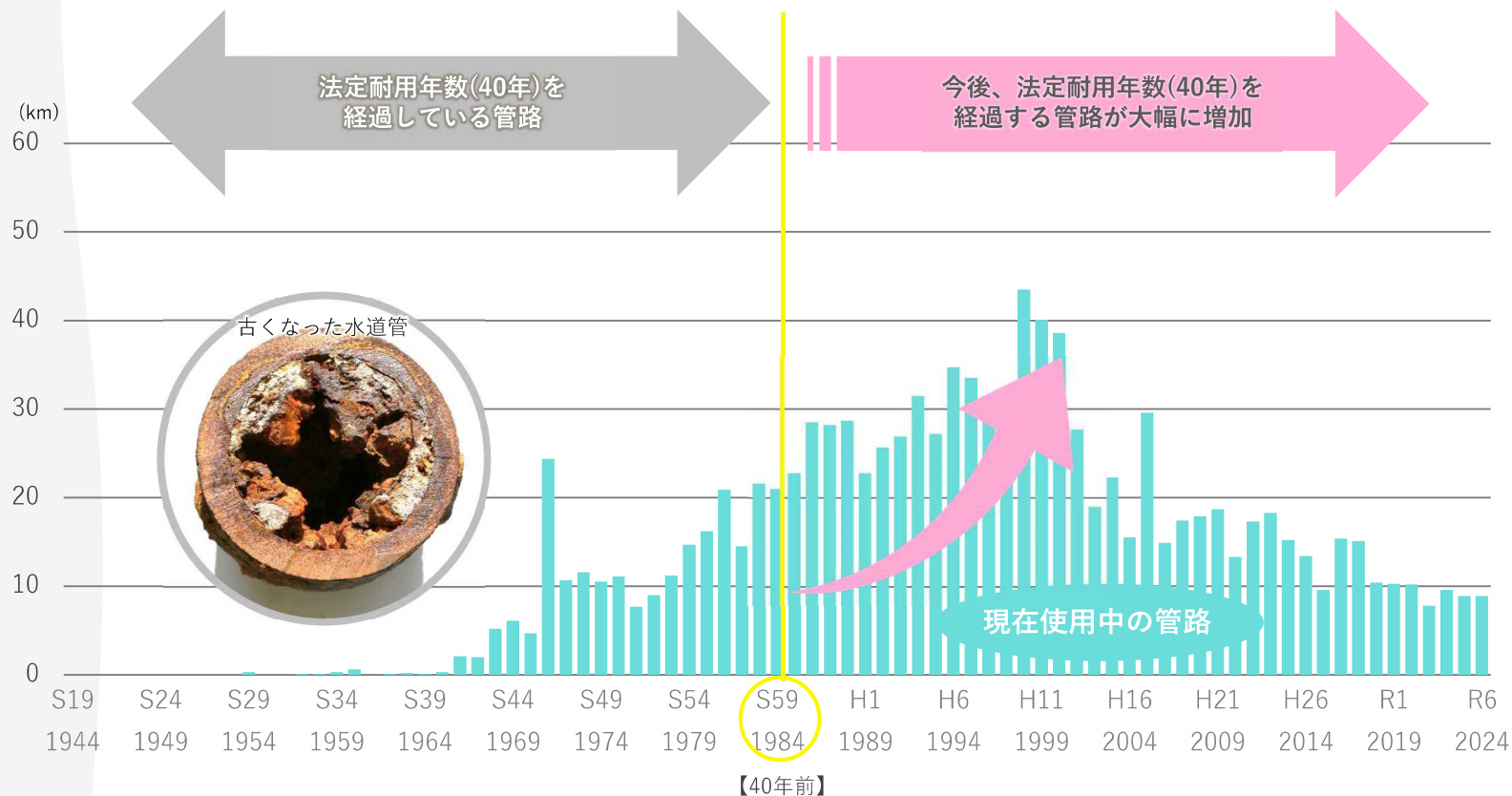


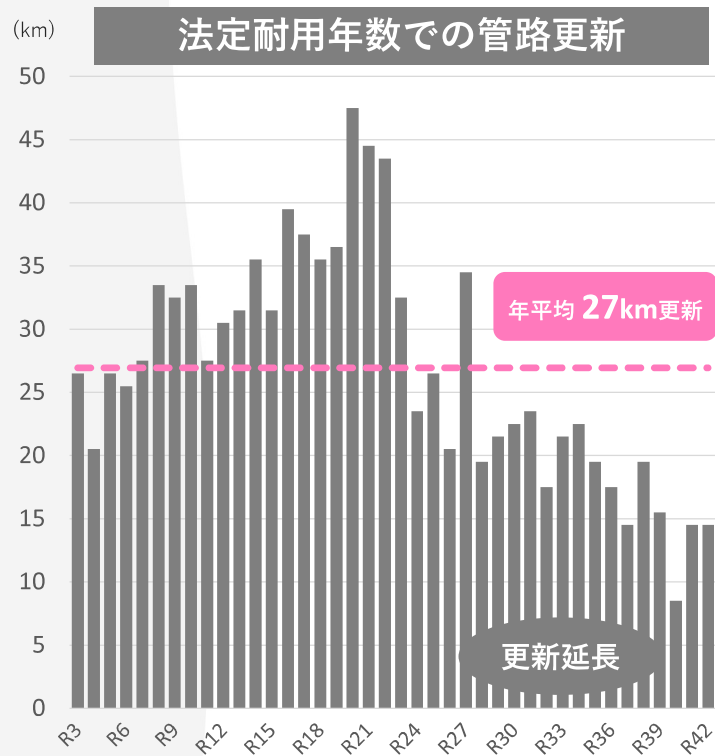
水道管路



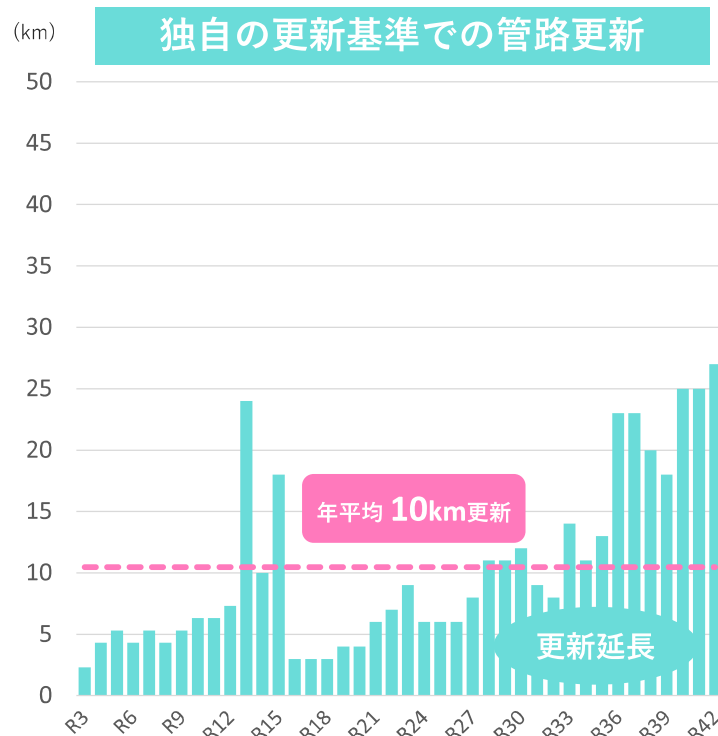
種 別	延長(km)
導水管	3.5
送水管	20.0
配水本管	49.1
計	72.6
重要給水施設管路	37.0
配水支管	1,002.1
総延長	* 1,074.7

*複数種別を兼ねる管路があるため、各種別管路の合計値と一致しない



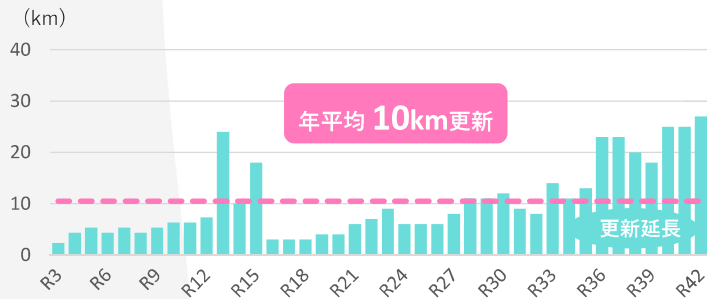


適正化

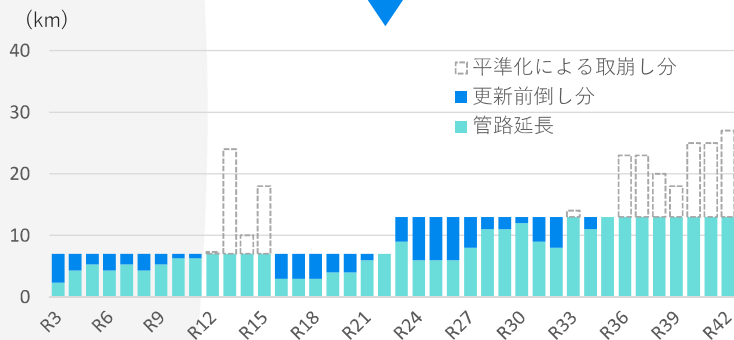


02 水道施設について(管路更新の考え方)

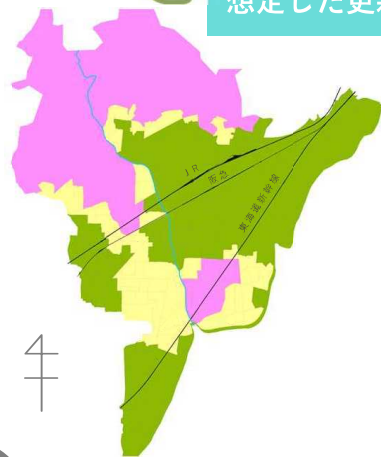
独自の更新基準での管路更新



平準化



埋設環境評価による実耐用年数を
想定した更新基準を地域別に設定



※ 非錆鉄管の更新基準年数は、一律60年としています

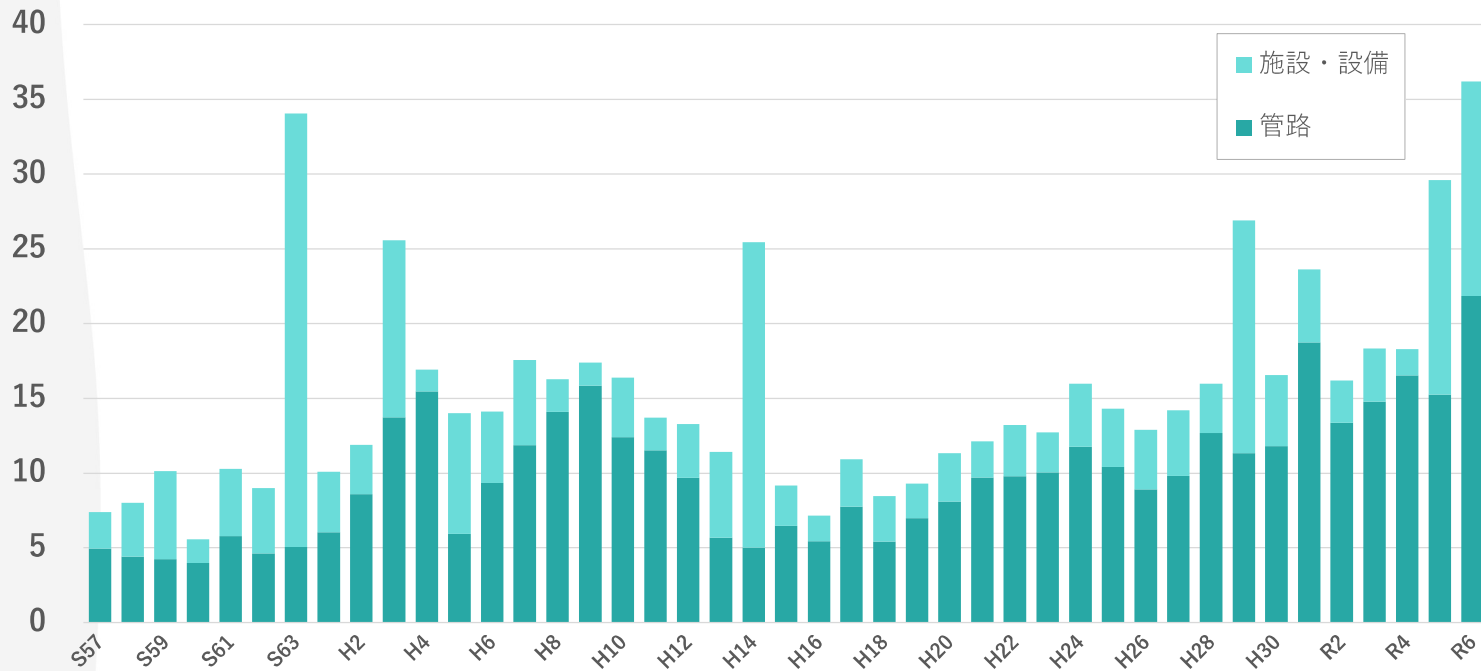
法定耐用
年数は
40年

埋設環境 の評価区分	腐食性が高い	一般的	腐食性が低い
独自の更新基準年数 ()は腐食対策あり	50年 (70年)	60年 (80年)	80年 (100年)

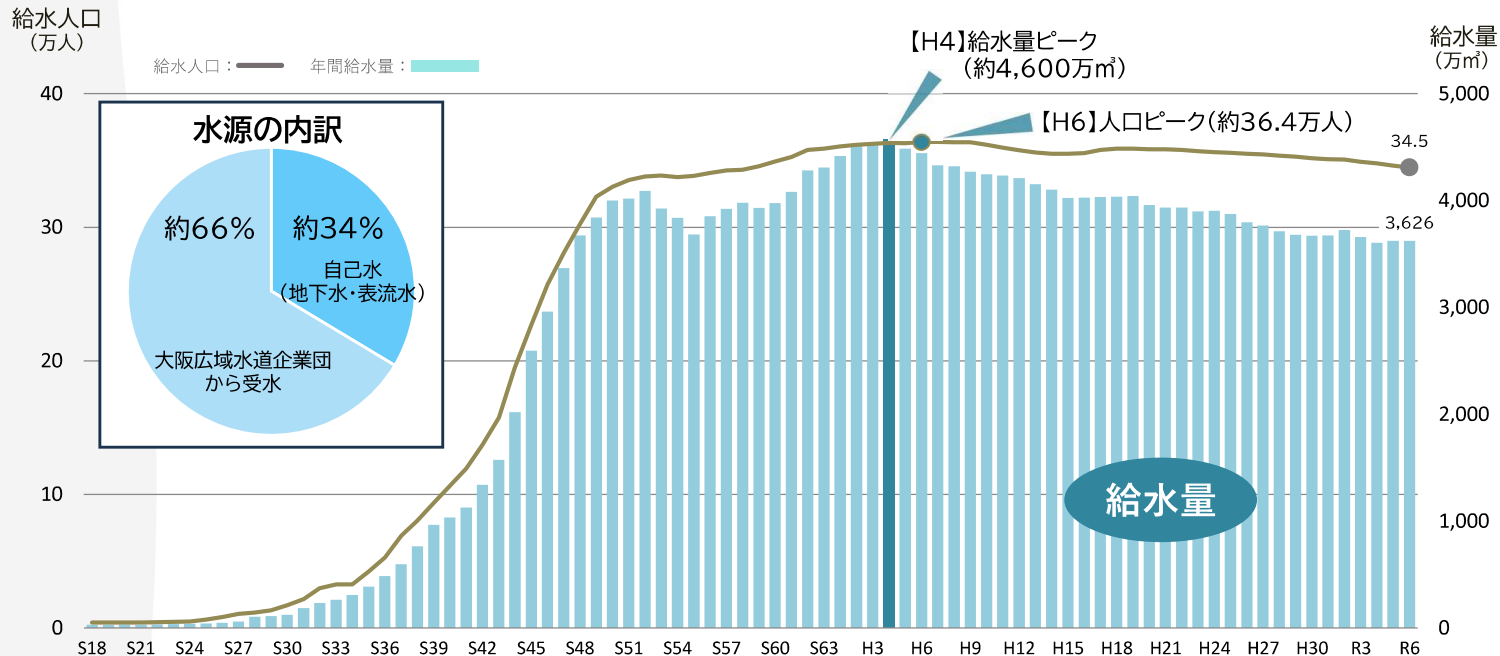
有収率の向上を目指していた1980年代から蓄積してきた土質調査や漏水履歴のデータに加え、鋳鉄管メーカーと協力し水道管の腐食調査と土質調査を行ってきました。これらの調査結果と、埋設環境やポリエチレンスリーブ*被覆といった腐食対策の有無などによって、市内の水道管の腐食度合いを把握し地域別の更新基準年数を設定しています。

*ポリエチレンスリーブ：地中に埋設する水道管の腐食対策として、水道管を被覆するポリエチレン製のチューブのこと

(億円)



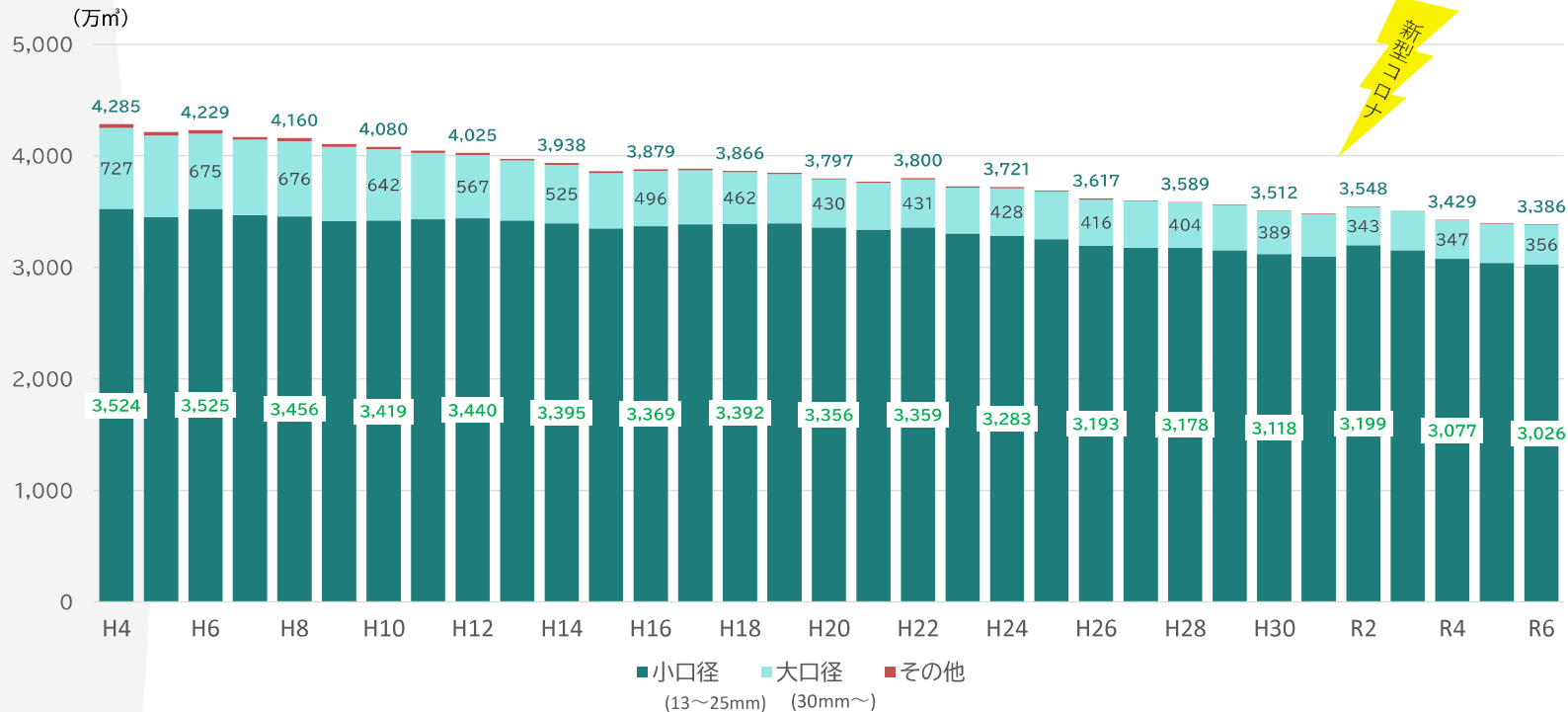
給水人口は、平成6年度の約36.4万人をピークに減少傾向が続き、令和6年度では、約34.5万人となっています。
給水量についても、平成4年度の約4,600万 m^3 をピークに、令和6年度では約3,600万 m^3 まで減少しています。



02

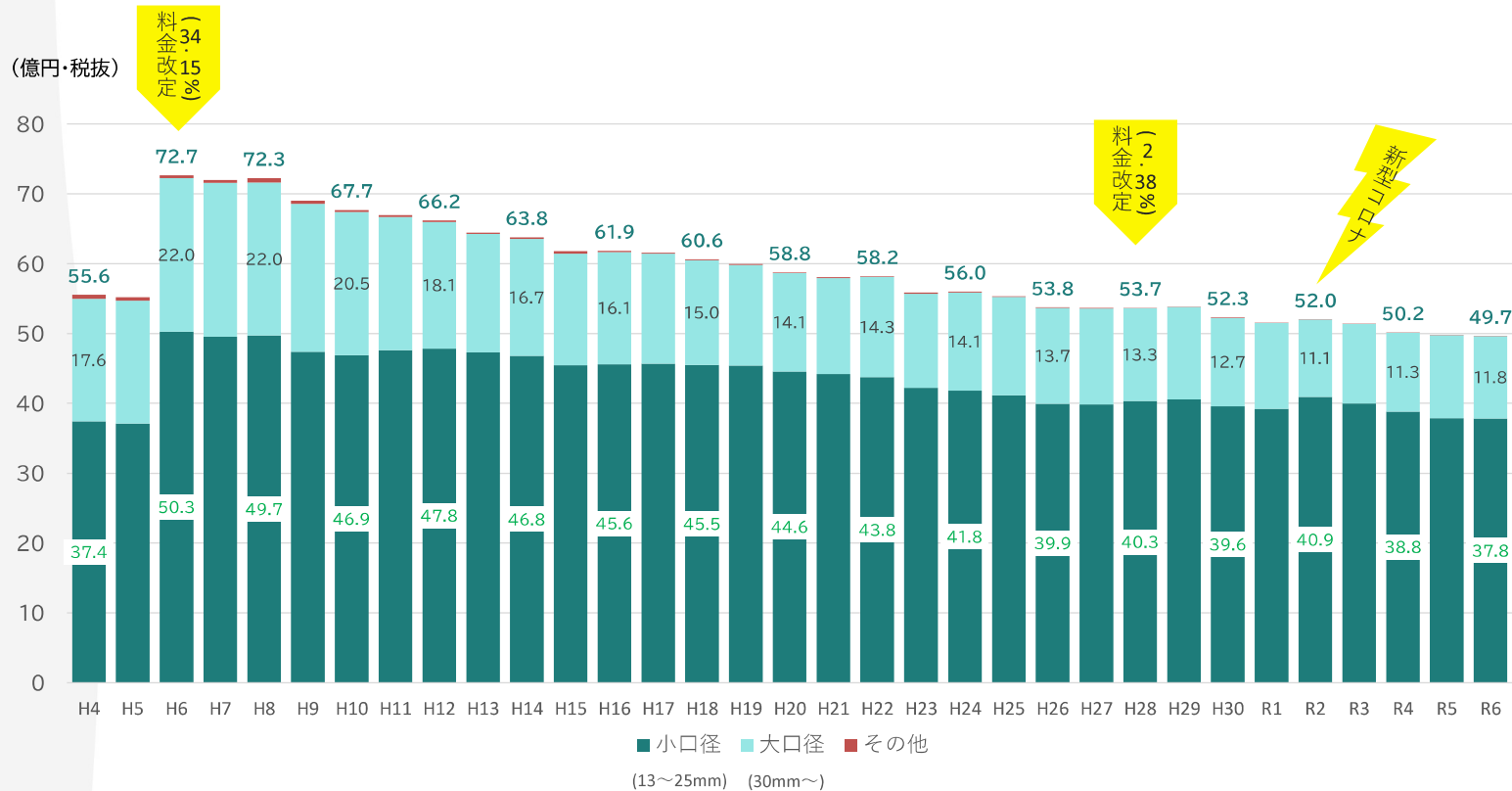
口径別有収水量

小口径の有収水量は、平成6年度の約3,525万 m^3 をピークに、令和6年度では約3,026万 m^3 （▲14.2%）まで、
大口径の有収水量は、平成4年度の約727万 m^3 をピークに、令和6年度では約356万 m^3 （▲51.0%）まで減少しています。



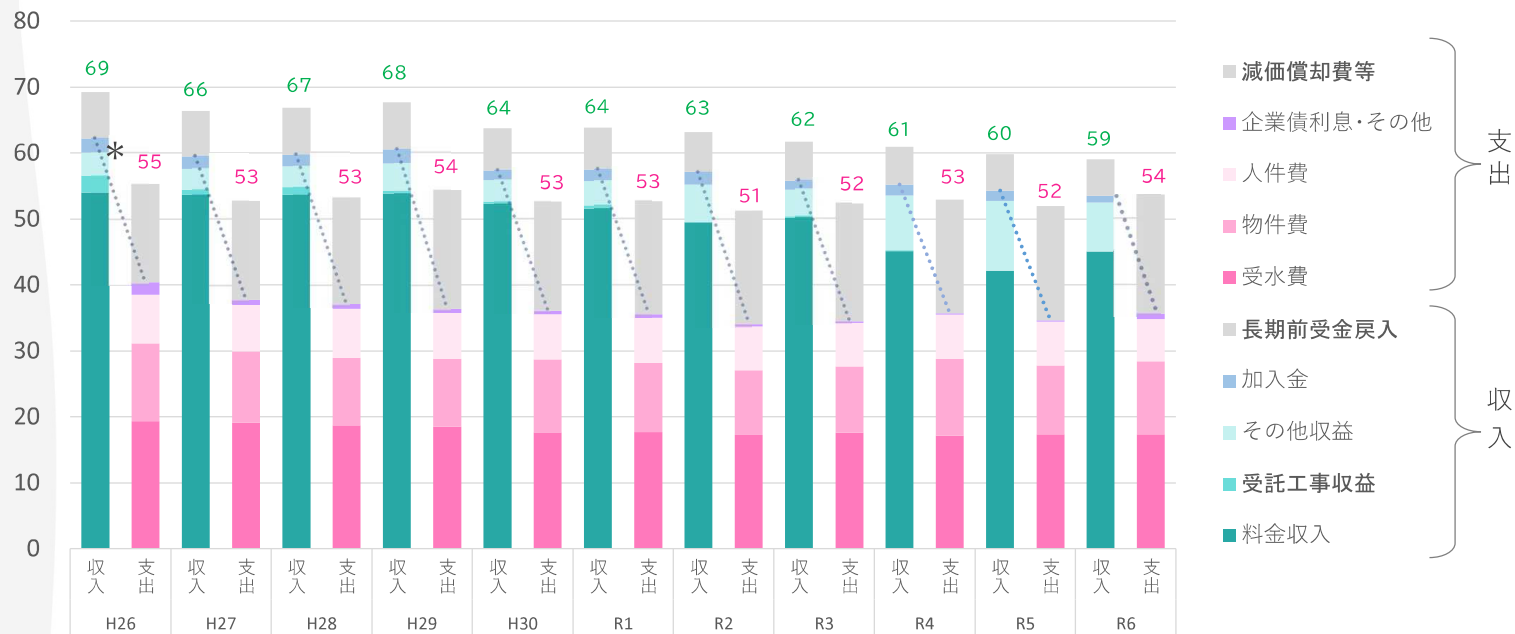
02

口径別料金収入



☑ 収入は減少傾向にあり、支出は減少傾向にあったものが近年は増加傾向にあります。

(億円)

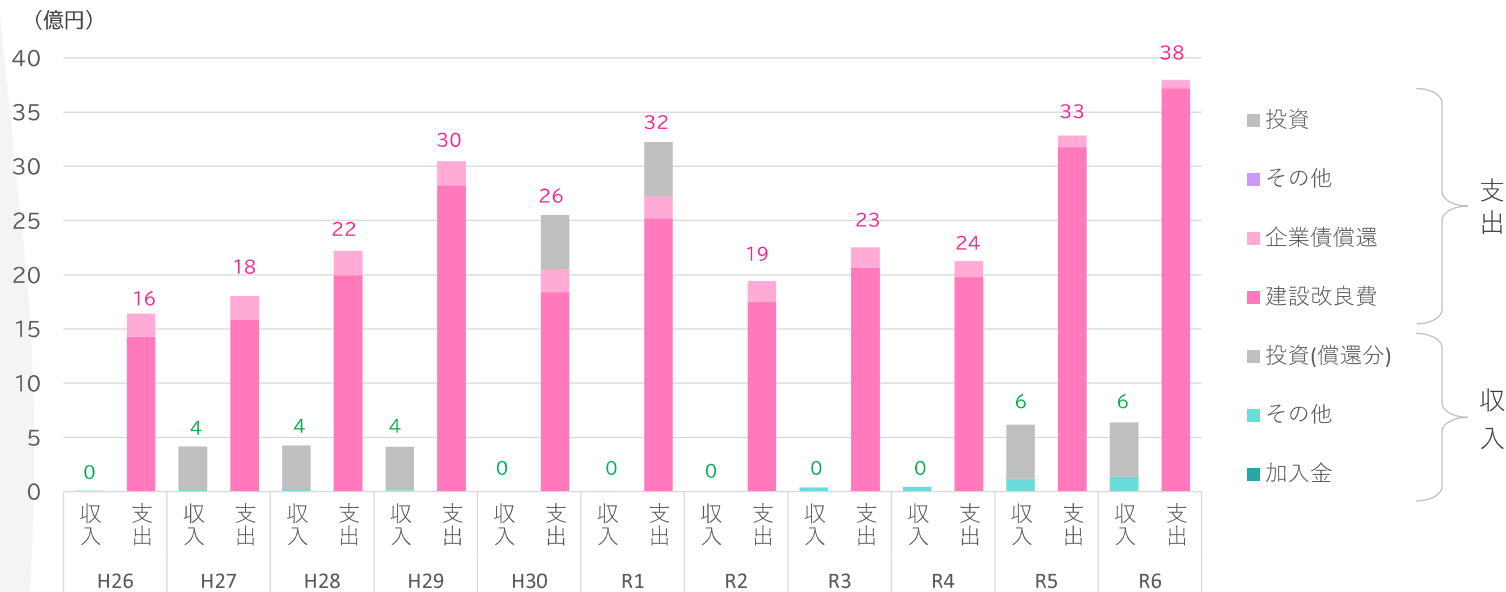


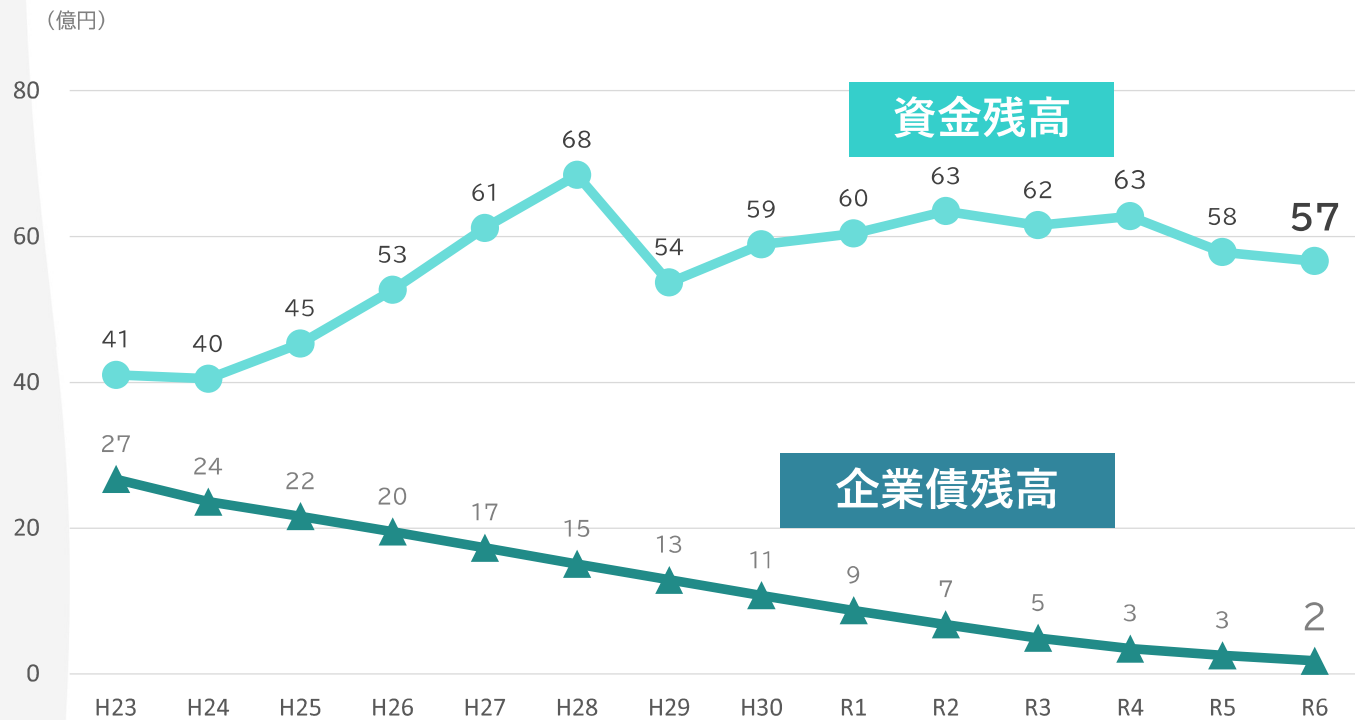
* : 減価償却費や長期前受金戻入の非現金科目を除いた差額を.....点線で示しています

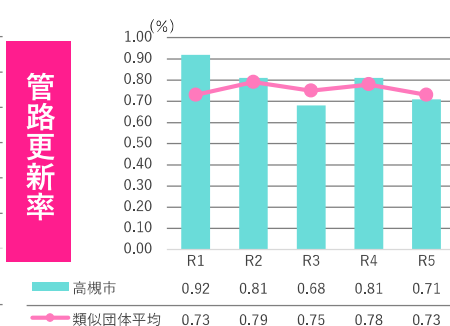
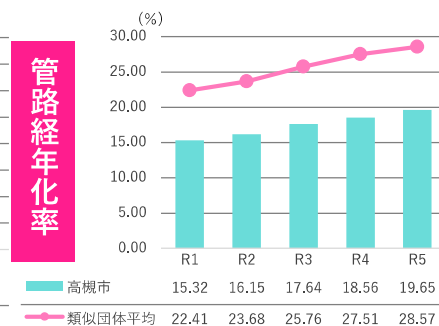
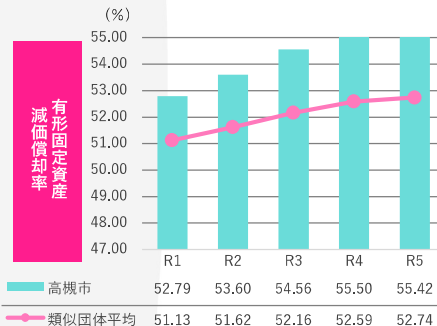
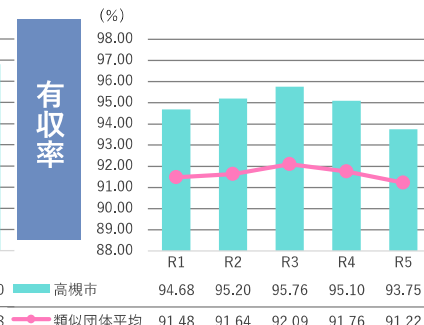
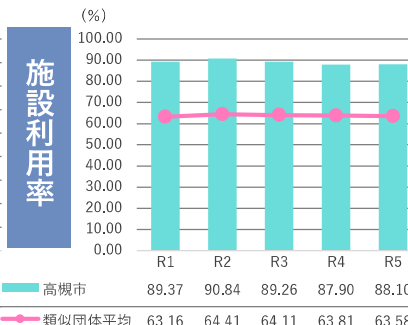
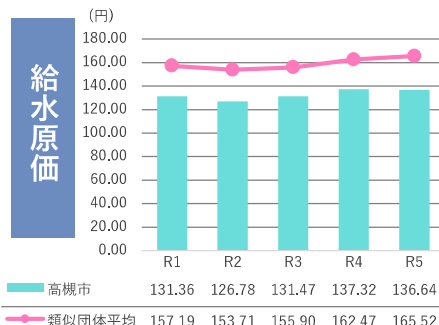
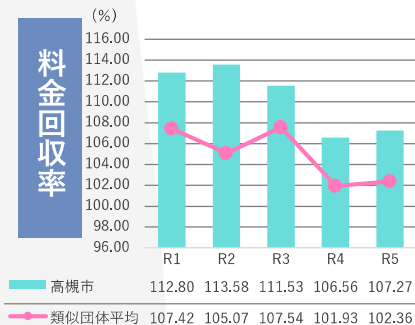
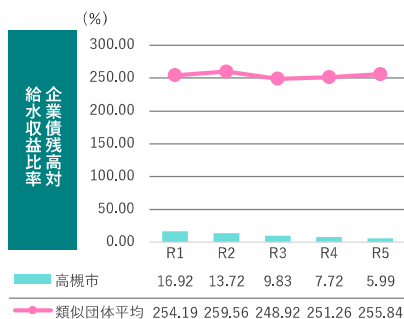
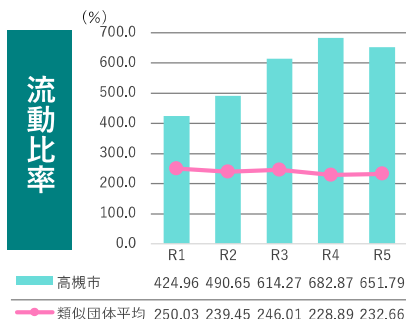
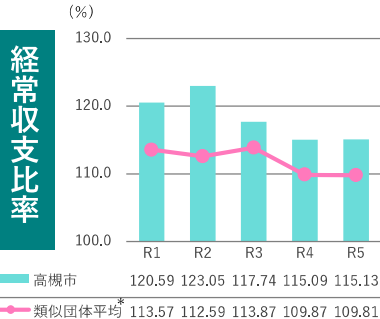
02

収支状況(資本的収支)

- ☑ 収入に対して建設改良費による支出が大きいため、収益的収支で発生した純利益（黒字）と非現金支出（減価償却費等）から補填しています。







*: 高槻市は、給水人口規模が30万人以上の区分(政令指定都市を除く)に位置付けられ、この区分内での団体平均を「類似団体平均」としている

目次

01

審議内容

..... P.1

02

高槻市の水道について

..... P.2

03

経営戦略（実績確認と更新ポイント）

..... **P.16-**

04

実施計画（実績確認と更新ポイント）

..... P.26

第

1

回

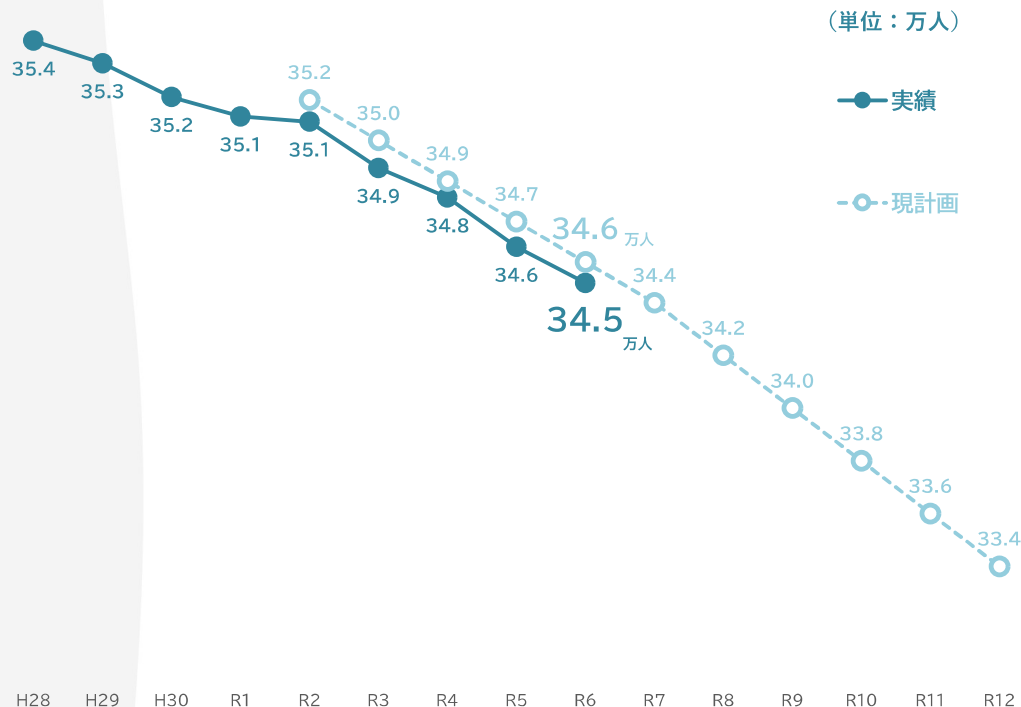


高槻市
水道事業審議会

03 給水人口

(13~25mm)

給水人口 × 1人1日使用水量 × 年間日数 = 有収水量【小口径】



[実績概要]

☑ 給水人口は計画対比でやや下振れ

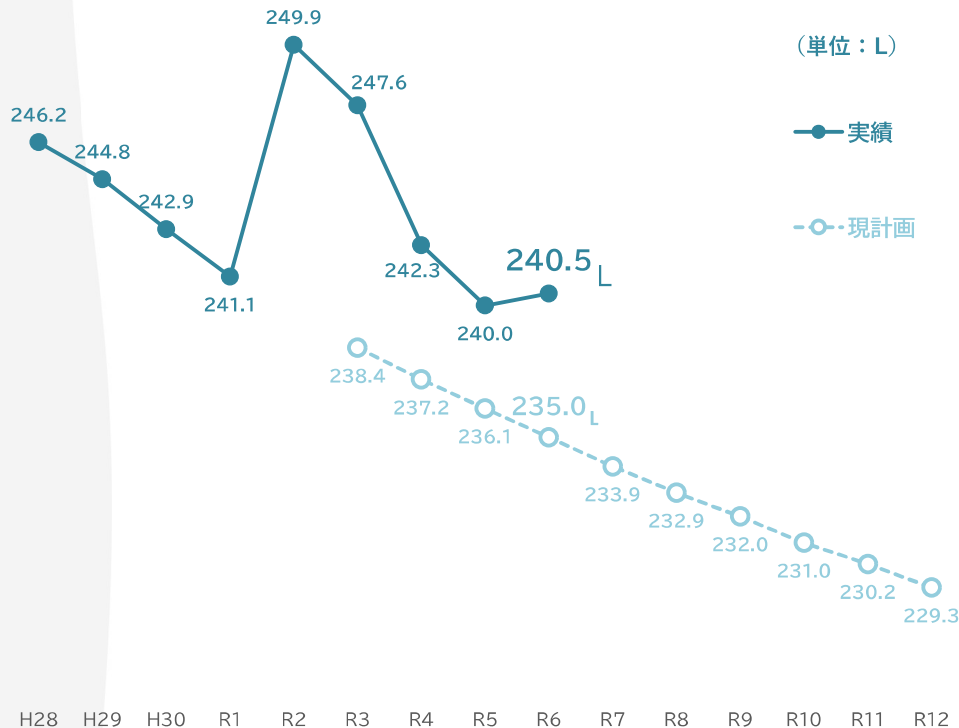
毎年概ね1,000人程度下回って推移

[更新ポイント]

☑ 最新の人口ビジョンを反映

(13~25mm)

給水人口 × 1人1日使用水量 × 年間日数 = 有収水量【小口径】



[実績概要]

☑ コロナ禍の影響で一旦増加後、減少基調に

R3以降、計画を上回る水準で推移

R6末は計画比 約 5.5L/日 の上振れ

[更新ポイント]

☑ コロナ以降の上振れ状況を踏まえ推計を見直し

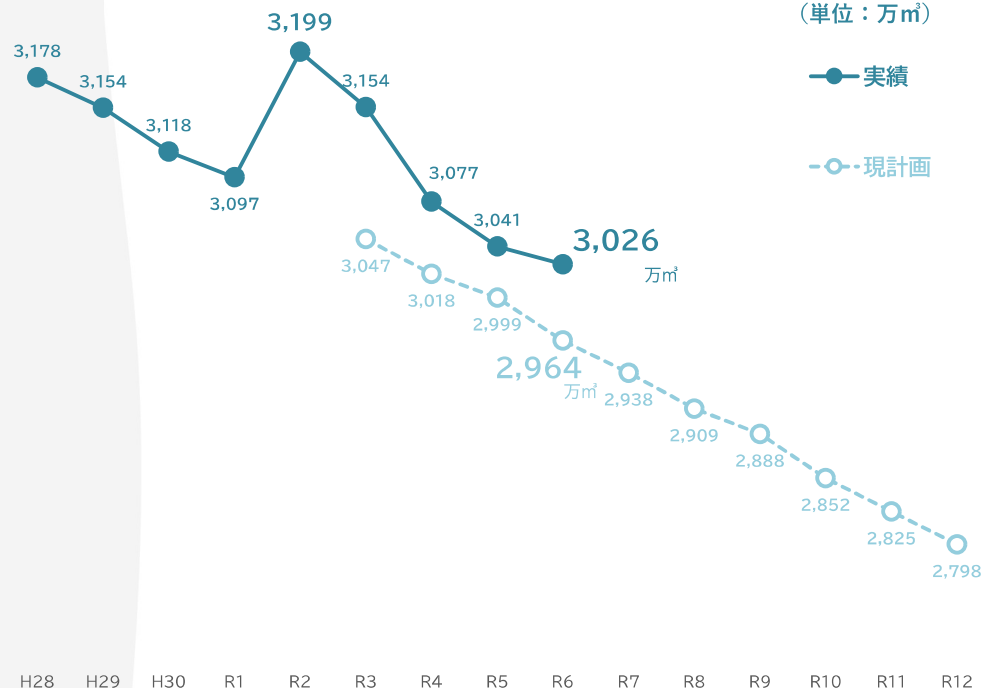
※現計画はコロナ前のR1までの実績を基に推計

03

有収水量・小口径

(13~25mm)

給水人口 × 1人1日使用水量 × 年間日数 = 有収水量【小口径】



[実績概要]

☑ コロナ禍影響で一旦増加後、減少基調に

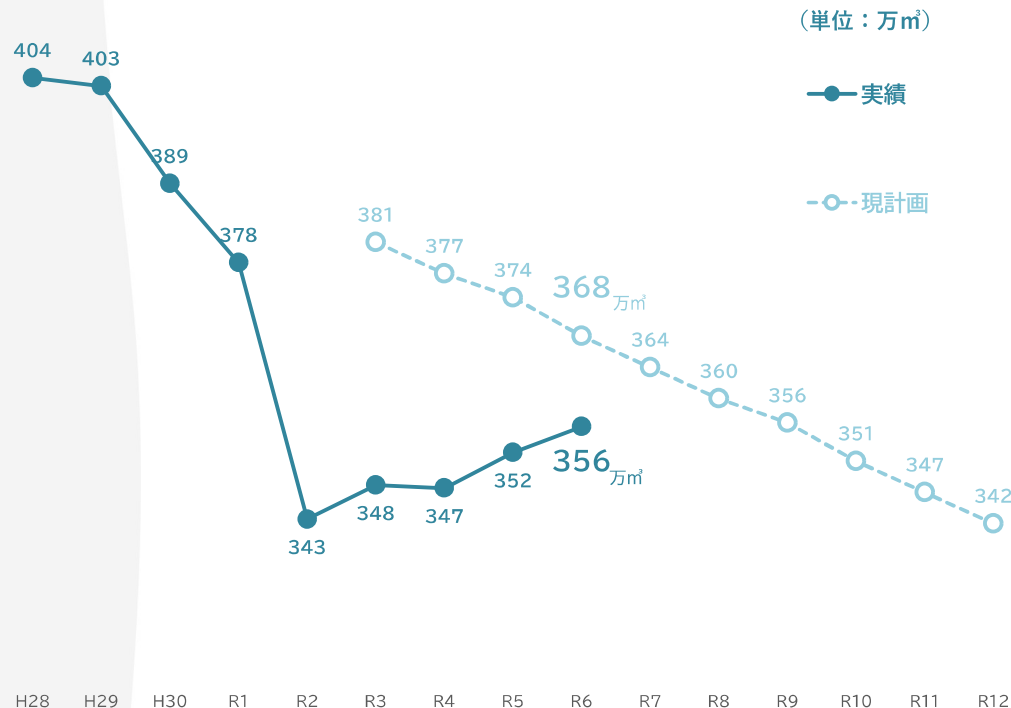
R3以降、計画を上回る水準で推移

R6末は計画比約62万 m^3 上振れ

[更新ポイント]

☑ 最新の人口ビジョン反映

☑ 1人あたり使用水量更新



[実績概要]

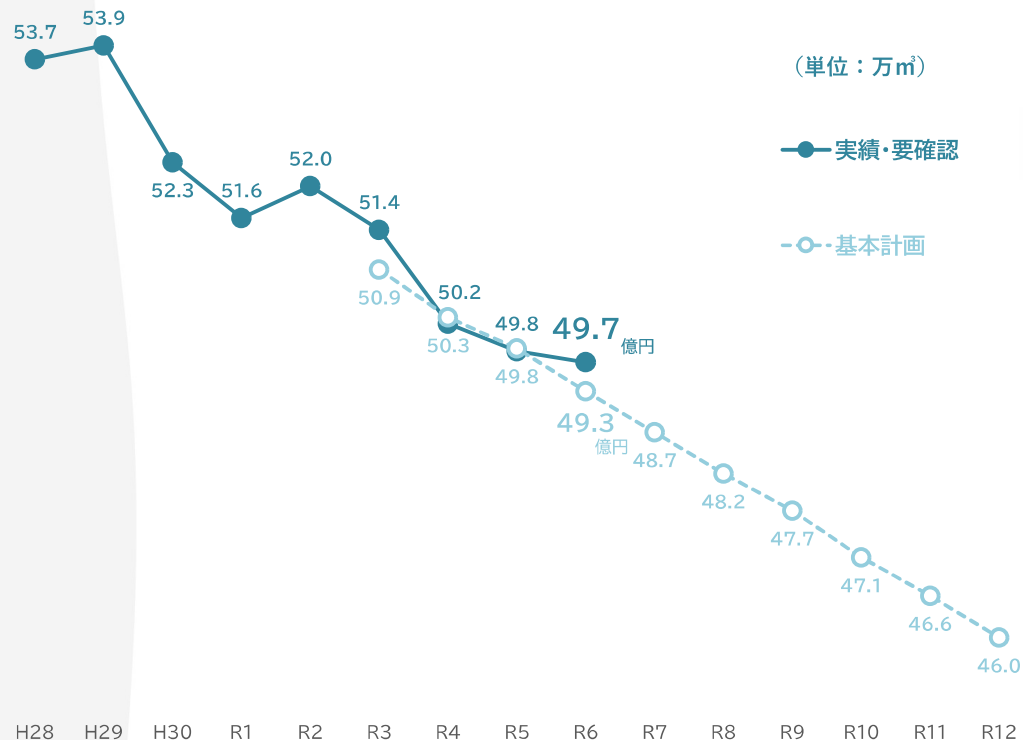
☑ コロナ禍の影響で大きく減少後、微増

R3以降、計画を下回る水準での推移が継続

R6末は計画比約12万㎡下振れ

[更新ポイント]

☑ 口径別の状況を反映



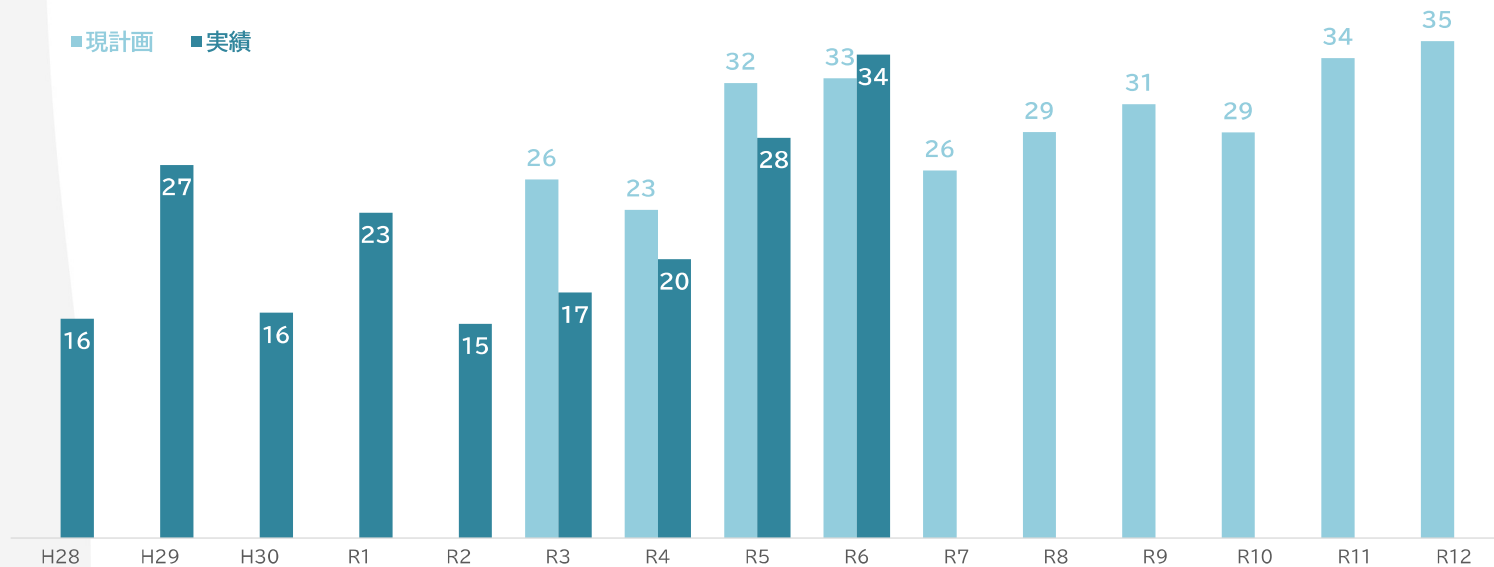
[実績概要]

- ☑ 基本的に右肩下がりでの推移
(R2はコロナ禍の影響で微増)
- 計画との対比では、大きな乖離なく推移

[更新ポイント]

- ☑ R7.10月実施予定の料金改定を反映
- この他、口径別の水量割合・供給単価の変動等を考慮

(単位：億円)

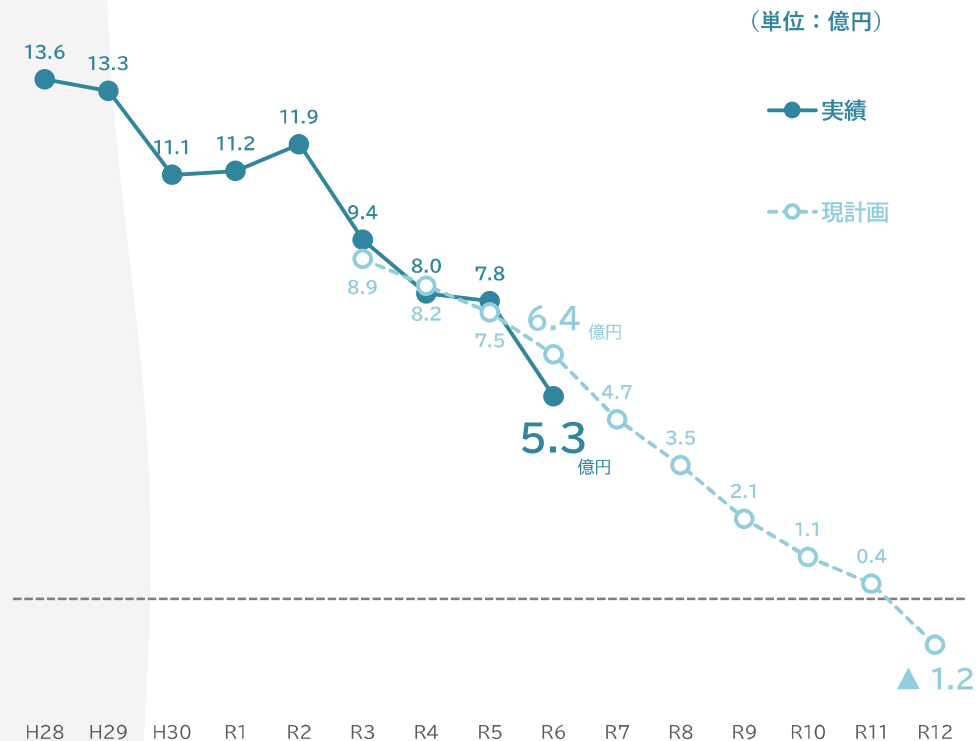


[実績概要]

- ☑ 現計画期間(R3-R6)は、R6を除き計画を下回って推移
落札差金や、大冠浄水場更新工事の延期等によるもの
整備事業(5年：R3-R7)の執行率は約90%となる見込

[更新ポイント]

- ☑ 更新需要精査(含む耐用年数設定の見直し、ダウンサイジング)
- ☑ 事業単価の更新(物価変動の反映)
- ☑ 大冠浄水場更新工事の実施延期の反映



[実績概要]

☑ 収支は概ね計画通りに推移

[更新ポイント]

☑ 支出：物価上昇等の影響の反映

維持管理費、委託費、動力費等の上昇傾向等の反映

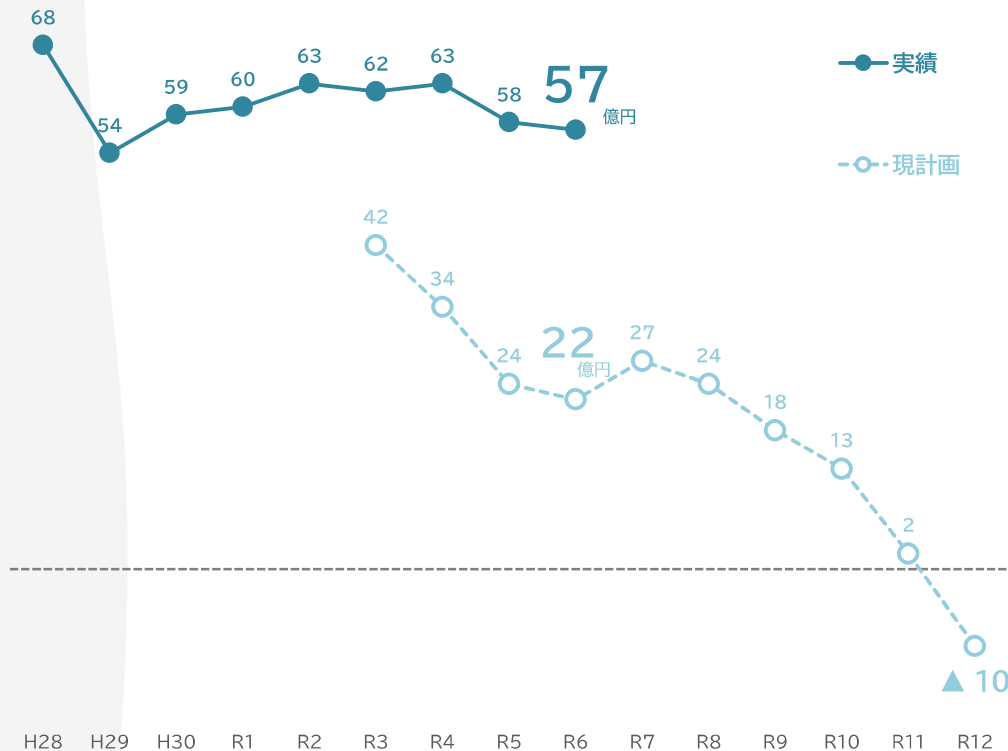
☑ 収入：給水収益等の更新分の反映

水道料金改定の影響等

03

資金残高

(単位：億円)



[実績概要]

☑ 資金残高は計画に対し上振れ

要因：事業費の計画比下振れ

(落札差金の発生、工事の計画変更等)

工事費用支払タイミングのずれ

債券投資計画の変更 など

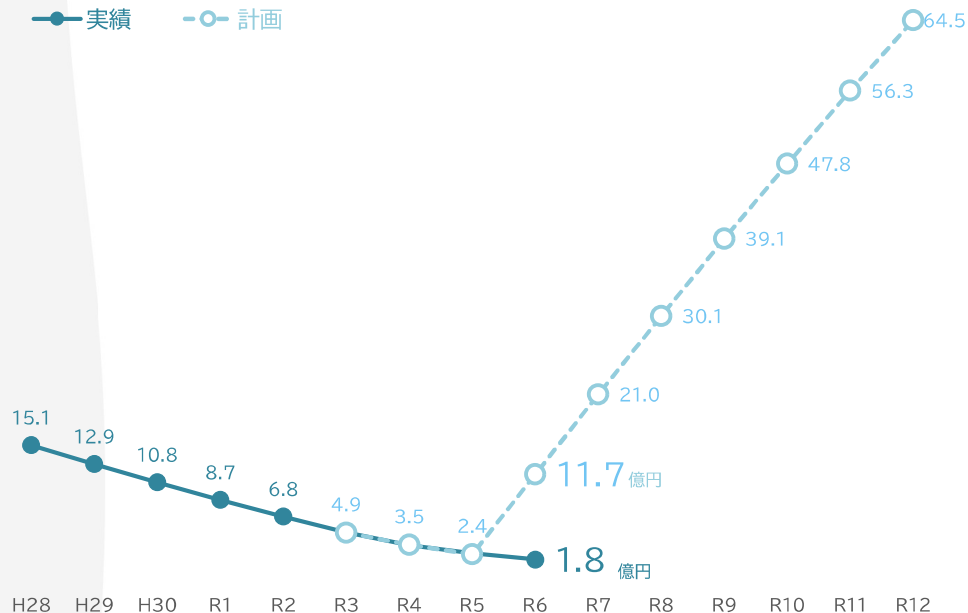
[更新ポイント]

☑ 事業費更新分の反映

☑ 固定資産取得費の反映

DX推進に向けたシステム導入など

(単位：億円)



[実績概要]

☑ 企業債残高は計画に対し下振れ

要因：企業債活用予定であった大冠更新事業の延期により、企業債による資金調達を見送ったため

[更新ポイント]

- ☑ 大冠浄水場更新工事の実施延期の反映
- ☑ 事業計画更新分の反映

収入

給水収益

- 料金改定の反映
- 人口推計を含む水需要の見直し反映

企業債

- 企業債の活用方針反映

国庫補助金
・
一般会計繰入

- 水道料金以外の新たな財源の確保

支出

施設整備

- 施設の老朽化を踏まえた将来の更新需要算定
- 建設物価高騰等の反映(資産維持費の概念)
- 大冠浄水場の更新時期、事業費の検討

↑アセットマネジメント
(施設統廃合・ダウンサイジング含む)

維持管理

- 物価上昇を反映した維持管理費、委託費、動力費等の上昇傾向の反映

DX

- DX推進に必要な費用の反映

目次

01

審議内容

..... P.1

02

高槻市の水道について

..... P.2

03

経営戦略（実績確認と更新ポイント）

..... P.16

04

実施計画（実績確認と更新ポイント）

..... **P.26-**



第 1 回

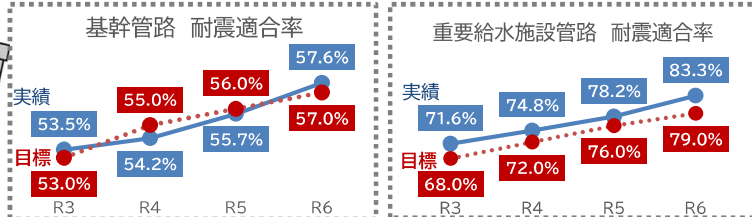
1

高槻市
水道事業審議会



方針		安全1 安全な水質を管理・維持していくための方針		
施策	1-1 水道GLPの認定維持 ・国による水質基準見直しへの対応 ・安全性確認のための水質検査	取組等 (主なもの)	KPI ☒ 水質検査精度 ・目標:第1群の維持	目標 達成
	1-2 水安全計画の推進 ・水安全計画に基づき安全な水を安定的に供給		KPI ☒ 水道GLP認証 ・R5年度認証更新済 ・R7年度外部審査済	計画 通り
	1-3 水道水を安全にご使用いただくための広報・啓発・支援 ・給水装置の適正な管理に向けた情報提供の実施など		KPI ☒ 水質基準不適合率 ・目標:0%の維持	目標 達成
方針		安全2 施設・設備（安全）に関する方針		
施策	2-1 浄水処理施設等の最適な更新方法の検討・実施 ・大冠浄水場浄水処理工程の段階的な更新 ・樫田浄水場の取水施設の改修	取組等 (主なもの)	☒ 大冠浄水場の更新 ・全国的に有機フッ素化合物(PFAS)問題が顕在化 ・国の規制動向を注視、対応検討のため更新延期	計画 修正
	2-2 安全な水質を維持するための施設管理の取組 ・計画的な施設の維持管理、更新の実施 ・将来的な水需要を考慮した施設の統廃合、ダウンサイジングの検討		☒ 樫田浄水場の取水施設改修 ・R7年度に改修築造工事完了予定	計画 通り
R3-R7 総括		KPI:水質検査精度、水質基準不適合率は目標達成 事業進捗:PFAS対応のため大冠浄水場更新予定を変更		
R8以降 について		取組にPFAS関連の国の規制を踏まえた取組の 検討・実施等の新たな要素を加える		

将来像 災害に強く、しなやかな水道の整備



方針 強靱1 施設・設備（強靱）に関する方針	
施策 1-1 水道施設の災害対策 ・大冠浄水場の長期停電対策、浸水対策を実施 1-2 水道管路の強靱化 ・基幹管路、重要給水施設管路 の耐震化を推進 1-3 水道部庁舎の耐震化 ・災害時の重要な防災拠点である、水道部庁舎耐震化の実施	取組等 (主なもの) KPI ☒ 大冠浄水場停電対策事業 ・自家発電設備設置完了(実績:燃料備蓄日数1.1日) KPI ☒ 大冠浄水場浸水対策事業 ・自家発電機築造、浸水対策実施 KPI ☒ 基幹管路の耐震適合率 ・R6実績:57.6%(R6目標:57.0%) KPI ☒ 重要給水施設管路の耐震適合率 ・R6実績:83.3%(R6目標:79%) ・能登半島地震により上下水道一体での耐震化が急務に ☒ 水道部庁舎の耐震化 ・R6に耐震化完了
	目標達成 計画通り 目標達成 目標達成 計画通り
方針 強靱2 災害対応・危機管理に関する方針	
施策 2-1 危機管理体制の強化 ・大規模災害に備え、危機管理体制の強化等、災害に強い体制の構築 2-2 効果的な災害広報・市民との協働の推進 ・市民との連携強化、日頃からの災害への備えを促す情報発信や、発災時の効果的な情報伝達に資する体制の整備	取組等 (主なもの) ☒ 災害分野の計画策定等 ・BCPや受援計画の策定、外部組織との協定協議 ☒ 住民組織との連携、災害に関する広報 ・自治会と応急給水覚書締結 ・防災啓発動画「たかつきみずから防災」製作、配信
	計画通り 計画通り
R3-R7 総括	KPI:燃料備蓄日数、各耐震適合率は目標達成 事業進捗:高槻市上下水道耐震化計画を策定し、耐震化推進
R8以降 について	取組に重要給水施設管路の対象拡大や、貯水機能付給水管の整備等を新たな要素として加える

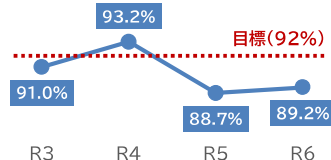
将来像 いつまでも信頼される水道 ①



イベントを通じた広報活動



お客さま満足度



方針

持続1

組織体制と広域連携に関する方針

施策

1-1 組織体制の強化

- ・組織体制の整備、職員のスキルアップ・技術継承

1-2 広域連携の検討

- ・本市の実情に即した広域連携の取組を検討

取組等

(主なもの)

☑ 資格取得、研修受講の推進

- ・資格取得講習の受講
- ・外部研修(年平均530時間)内部研修(年平均500時間)

計画
通り

☑ 近隣事業体との協議

- ・大阪府や近隣事業体との情報交換

計画
通り

方針

持続2

多様なお客さまサービスに関する方針

施策

2-1 広報・広聴・啓発の推進

- ・様々な情報媒体を活用しての積極的な情報発信、お客さまニーズの把握

2-2 給水装置に係る情報提供の推進と指定給水装置工事事業者制度の改善

- ・給水装置の維持管理、工事発注に関する情報提供

2-3 多様なお客さまサービスの調査・研究

- ・お客さまニーズの把握、新たなサービスの提供

2-4 地域社会貢献への取組

- ・公営企業として社会貢献に寄与する取組を実施

取組等

(主なもの)

☑ 広報・広聴・啓発の取組

- ・経営情報や防災啓発等をSNSやイベント等を通じて発信

計画
通り

☑ 給水装置、工事事業者に関する情報提供

- ・HPを適時更新し、各種情報を開示

計画
通り

KPI

☑ お客さま満足度

- ・目標:92%以上

目標
未達

☑ 多様な支払方法の検討

- ・スマートフォン決済の導入

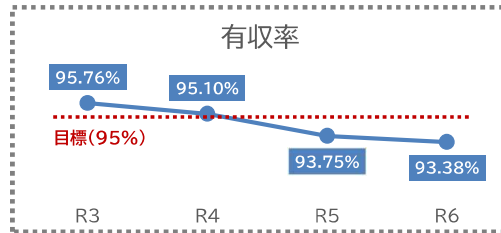
計画
通り

☑ SDGs目標を踏まえた社会貢献

- ・「たかつきエコオフィスプラン」に基づき低炭素化に向けた取組
- ・学習機会の提供、高齢者雇用企業活用

計画
通りR3-R7
総括KPI:お客さま満足度は目標未達
事業進捗:概ね計画どおり進捗R8以降
について

取組に関し、状況の変化に応じて適宜項目を見直す



方針

持続3 資源・資産の有効活用に関する方針

施策

3-1 高有収率の維持と継続的改善

・計画的な漏水防止対策の推進により漏水を抑制し、貴重な水や経費を有効活用

3-2 業務の更なる効率化の推進

・人的資源、物的資源を最大限有効に活用できるよう、業務効率化を検討、推進

3-3 遊休資産の活用・処分

・現在使用していない所有不動産の売却に向けた検討・調整

3-4 自己水による給水量の一定確保

・企業団水に比べ安価に製造可能な自己水を一定量確保し、費用の削減を図るとともに、複数水源を確保し、災害対策として活用

取組等
(主なもの)

KPI

☑ 有収率

・目標：95%の維持

☑ 漏水調査

・調査範囲を拡大し、漏水調査を強化

☑ 業務効率化の推進

・業務委託範囲の拡大等

☑ 工事発注平準化の推進

・発注計画に基づき平準化率管理

☑ 管工事の発注・管理方式検討

・概算数量設計発注方式を一部工事で採用

☑ 遊休資産の活用・処分

・元芥川受水場の売却に向けた調整

KPI

☑ 自己水系総給水量

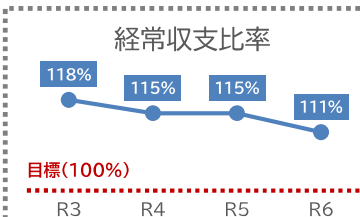
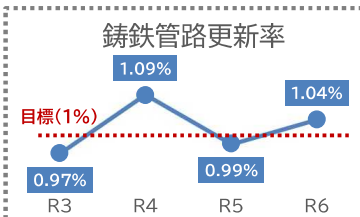
・目標：1,200万 m^3 /年を維持

目標
未達計画
通り計画
通り計画
通り計画
通り計画
通り計画
通りR3-R7
総括

KPI:有収率は目標未達、自己水系総給水量は目標達成
事業進捗:概ね計画どおり進捗

R8以降
について

有収率の維持に向けた取組等の項目を更新する



方針 持続4 施設・設備（持続）に関する方針

施策

4-1 施設の適切な更新

・施設の重要度や優先順位を考慮し、適切な更新・維持管理を実施

4-2 老朽管の更新

・管路更新計画に基づき、持続的かつ円滑に老朽管の更新を推進

4-3 情報資産の管理・活用と水道施設の適切な維持管理

・事業運営に必要なシステムを活用し、業務効率向上を図る

取組等 (主なもの)

☑ 受水池・配水池の改修

☑ 老朽設備の更新

・各施設等の更新、改修実施

計画
通り

KPI

☑ 铸铁管路更新率

・目標：更新率1%

目標
達成

☑ 水道料金システム更新

・料金システム更新等、DX推進に着手

計画
通り

方針 持続5 水道の供給維持のための投資に係る財源の確保に関する方針

施策

5-1 持続可能な水道のための財源の確保

・事業運営に必要な財源の確保に向けた、料金水準・体系の検討

5-2 企業債等の活用に関する調査・取組

・企業債等の適切な残高管理による健全な財務体質の維持
・補助金等の新たな財源獲得に向けた検討

取組等 (主なもの)

☑ 料金水準・体系の検討

・審議会答申を踏まえ、料金改定を実施(R7.10)
・経営情報を全戸チラシ等を用いて広く発信

計画
通り

KPI

☑ 経常収支比率

・目標：100%以上を維持

目標
達成

☑ 企業債の活用

・企業債借入額に上限を設定(年間5.2億円)

計画
通り

☑ 国庫補助金の活用

・補助金の獲得、新たな財源の確保に向けた調査研究

計画
通り

R3-R7
総括

KPI: 铸铁管路更新率・経常収支比率は、目標達成
事業進捗: 概ね計画どおり進捗

R8以降
について

取組に関し、状況の変化に応じて適宜項目を見直す

基本計画

現行通り

実施計画に新たに盛り込む要素(例)

策定(R8-R12)

安全

安全・安心な水道水の供給

- ✓ 安全な水質を管理・維持していくための方針
- ✓ 施設・設備（安全）に関する方針



✓ PFOS・PFOAへの対応

新たな水質基準を踏まえ、水質検査・管理体制を強化
国の動向を見極め、大冠浄水場更新の方向性を検討

強靱

災害に強く、しなやかな水道の整備

- ✓ 施設・設備（強靱）に関する方針
- ✓ 災害対応・危機管理に関する方針

✓ 重要給水施設管路の
更なる耐震化推進

対象施設を全避難所に拡充
上下水道一体での耐震化推進

✓ 貯水機能付給水管（写真→）
を整備（市長部局と連携）

持続

いつまでも信頼される水道

- ✓ 組織体制と広域連携に関する方針
- ✓ 多様なお客さまサービスに関する方針
- ✓ 資源・資産の有効活用に関する方針
- ✓ 施設・設備（持続）に関する方針
- ✓ 水道の供給維持のための投資に係る財源の確保に関する方針



✓ 水道DXの推進 料金システム、スマートメータなど

✓ 漏水対策の強化 新手法の研究・検討（衛星調査など）

✓ 新たな財源の確保 国庫補助金など

✓ 企業債の活用 上限設定のうえ、企業債を活用